

ツツドリ

(学名: *Cuculus optatus*)

(写真・文 太田祥作)

【カッコウ目カッコウ科】



▲ 雄の成鳥/尾羽が長く、腹部の横斑が目立つ。右は毛虫を食べる様子

4月下旬、只見町の山野に「ポポ、ポポ、ポポ…」と単調なリズムのくぐもった鳴き声が響くようになります。一度は耳にされた方もいることでしょう。この鳴き声の正体こそ、今回ご紹介するツツドリです。

ツツドリは、東南アジアから渡ってくる夏鳥で、全国的には4月中旬から飛来します。和名は、筒を叩くかのような独特の鳴き声に由来しています。長い尾や腹部の横斑が特徴ですが、警戒心が強いので、姿を見る機会は多くありません。写真のように芋虫や毛虫など、ガの幼虫を好んで食べます。

ツツドリが属するカッコウの仲間は、^{たくらん}托卵と呼ばれる独特の習性をもつことで有名です。これは、別の種の鳥（^{かりおや}仮親）に子育てを言わば丸投げするもので、ツツドリの雌は卵のある仮親の巣に侵入すると、1卵だけを抜き取り、自らの産んだ1卵とすげ替えて紛れ込ませます。ツツドリの卵は、^{ふか}仮親に見破られないよう仮親の卵とよく似た色模様をしています。その後いち早く^{ふか}孵化したツツドリの雛は、他の卵を全て巣から落とし、仮親からの養育を独占します。また、カッコウの仲間でも托卵相手は種によって異なり、ツツドリの場合はセンダイムシクイという小鳥への托卵が多いことが分かっています。しかし、托卵は必ずしも成功するとは限らず、仮親の方も学習して托卵された卵を取り除いたり、親鳥を排除したりするなどして対抗するようです。

2種の生物が互いに影響し合って進化することを共進化といい、カッコウの仲間と仮親の関係性はまさに共進化の好例です。

只見町ブナセンターからのお知らせ

「ただみ・ブナと川のミュージアム」で開催しておりました企画展「只見の猛禽類」は、好評につき会期延長の運びとなりました。ぜひお誘い合わせの上お越し下さい。

企画展「只見の猛禽類」

会 期：2021年12月4日(土)～2022年6月6日(月)

場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー